

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	地域共生課長 小川 充則	
共生-19	エシカル消費推進事業	☒ 自治事務	主管課	地域共生課
重点事業		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	6-(4) 消費者対策	施策の方針	6-(4)-①安心な消費生活の実現

1 事業の目的

対象	市民等
意図	消費している商品やサービスの生産背景を知ることにより、人と社会、地球環境、地域のことを考慮した消費行動の理解促進に向け、エシカル消費の普及啓発を図るため。
効果	エシカル消費の理解を深めることにより、人と社会、地球環境、地域のことを考慮した消費行動ができる。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・エシカル消費を消費者の日常に浸透させるため、商品やサービスを提供する事業者を対象としたエシカル消費に関するワークショップを開催した。	
・日常生活で実践できるエシカルな行動(エシカルアクション)を紹介した動画を作成し、動画配信サイトで広く発信した。	
・フェアトレードの推進を目的とする取組に対する補助制度を運用し、各取組を支援した。	
・フェアトレードタウン推進組織が実施したタウン認定に関する申請を支援し、タウン認定を実現させた。	

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	エシカル消費啓発事業	講演会	開催数(回)	1回 / 693	1回 / 740	1回 / 740	100%
02	フェアトレード推進事業	事業費補助	補助件数(件)	5件 / 195	3件 / 600	3件 / 600	166.7%
03				/	/		
04				/	/		
05				/	/		
06				/	/		
07				/	/		
08				/	/		
		財源 内訳	国県支出金	444 / 670		670	
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	444 / 670		670	
		事業費の合計 (千円)		888 / 1,340		1,340	
		人件費 (千円)			9,472	10,081	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.5	0.9	1.1	1.1	1.1	1.1
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	エシカル消費啓発事業	フェアトレードタウン推進組織等と、事業者を対象としたエシカル消費に関するワークショップを共同開催した。	ワークショップを通じて、エシカル消費の理解を深めることができた。	特になし。推進組織と連携しながら取組を継続する。
02	フェアトレード推進事業	フェアトレードの推進を目的とする取組に対する補助制度を運用し、5件の取組を支援した。	フェアトレードタウン認定に向けた取組を通じて、エシカル消費の理解を深めることができた。	関連する団体や事業者に対して制度の周知を図り、更なる活用を図る。
03	0			
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		4 市民ニーズを計ることはなじまない
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施	△-1 今後、市民等との協働による事業を検討すべき事業がある
			協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☒ 拡充 ☐ 改善・変更 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止
・事業者を対象としたエシカル消費に関するワークショップを開催するとともに、日常生活で実践できるエシカルな行動(エシカルアクション)を紹介した動画を広く発信し、エシカル消費の普及啓発に寄与した。また、フェアトレードの推進を目的とする取組に対する補助制度を運用するとともに、フェアトレードタウン推進組織が実施したタウン認定に関する申請を支援し、タウン認定を実現させた。 ・フェアトレードタウン認定を契機とし、市民団体や企業との連携による啓発活動や講演会を実施し、フェアトレード及びエシカル消費の更なる啓発を図る。	

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	サステナブルラベルの認知度						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
市民への啓発効果を把握するため。	目標値	33.4	36.7	40.0	43.3	46.6	50.0	
	実績値	未実施	41.1	47.8	42.7	48.0		
	達成率	—	112.0%	119.5%	98.6%	103.0%		

指標(単位)	持続可能な消費行動を意識している市民の割合						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
市民への啓発効果を把握するため。	目標値	64.6	66.7	68.8	70.9	73.0	75.0	
	実績値	未実施	71.3	72.8	70.7	75.1		
	達成率	—	106.9%	105.8%	99.7%	102.9%		

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	事業対象となるエシカル消費は、行政分野において比較的新しい視点であり、自治体ごとに取組みの有無にばらつきがあるなど、理解度も大きく異なっている状況であることから、数値を用いた単純比較をすることは難しいと考える。
--------------------------	---